

【ふじのくにの里山 -茶畑の昆虫調査】 アースウォッチ・教員フェローシップ

実践報告書

小平市立花小金井南中学校

齋藤 晓

野外調査実施日 2025年10月4日（土）

1. 調査での気づき

野外調査に参加し、日本の豊かな生物多様性が「人の営み（里山）」の継続によって守られてきたという事実を知りました。また、林業についての野外調査に参加した際にも感じましたが、人の手が入ることによって保たれる多様性について実感することができました。静岡県には国内の植物種の約半分が存在するが、その12%が絶滅危惧種であるという現状は衝撃的でした。特に、かつて国土の30%を占めた草原が今や1%に激減しているという背景は、生徒に伝えるべき重要な視点だと感じました。茶草場農法が、お茶の品質向上だけでなく、意図的な草刈り管理によって絶滅危惧種の「すみか」を創出している現場を目の当たりにし、この伝統農法の継承が生物多様性保全に直結していることを肌で感じることができました。

2. 調査内容で得た知識を応用した授業実施の概要

「エシカル消費：思いを知り、考え、判断する消費」をテーマに、以下の構成で授業を実施しました。

- **【体験】お茶を淹れる実習：** 調理室にて、急須を使って茶草場農法で育てたお茶を淹れる体験を行いました。家で急須を使う習慣が失われつつある中、生徒たちは手順を確認しながら、香りや味に向き合っていました。
- **【講義】静岡の自然と農法：** 桃太郎の「芝刈り」の本来の意味（薪拾い）から、草原環境の減少を解説。茶草場農法が多大な手間をかけて生物多様性を守っている仕組みを伝えました。
- **【議論】消費の選択：** 「低コストな一般農法のお茶」と「手間をかけて環境を守る茶草場農法のお茶」、自分ならどちらを買うか、エシカル消費の視点から議論しました。



3. 授業実施時の子どもたちの反応や感想（画像は生徒数人を抜粋したもの）

生徒からは、自身の購買行動と環境問題の繋がりについて、以下のような感想が寄せられました。

- 「同じ味、香り、価格のお茶について考えることが、農家の方の思い、生態系に関わっていると知って驚いた。」
- 「安い方がいいと思っていたけれど、その背景を知ることで、価値を感じる方を選択していく『エシカル消費』の意味について学んだ。」
- 「静岡の伝統的な農法が絶滅危惧種を守っている。自分たちもお茶を入れることからはじめて、世界に関わっていきたい。」

☆授業で考えたことなど、感想を書きましょう。

普段はコンビニとかでお茶を買う時にはほとんどなくて「選んで」いるけれど、今回の授業でお茶は日本の文化的伝統でもあるから目的もあって買ったり、さかずにはれてのんびりしてみたい。自分にも良い影響があり、他の生物などにもあらわれていねいかどう色々考える。

茶草場農法やエシカル消費のことは全然知らなかった。環境とかに西で慮したものにより、今になって大企業のほうが安くなくなりすることがあるけど、その少しのねだんの違いで環境を変えることができるかもしれないと思った。思いを全て知るのはすごく大変だけど、いろいろなことを知って自分や社会、環境へのいい選択ができるようにしたい。

☆授業で考えたことなど、感想を書きましょう。

茶草場農法もエシカル消費も知らなかた。今は、ペットボトルを買えば、その場でお茶を飲むことができるけれど、急須でいれたお茶はまた違う味を味わうことができる。我が家にある急須を活用しようと思た。また、お茶以外でも、様々な努力をしている商品に気づいて、購入できるようになりたいと思った。茶草場農法やエシカル消費を家族に教えようと思う。

☆授業で考えたことなど、感想を書きましょう。

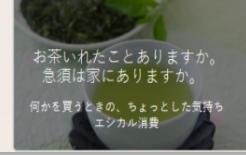
私の祖父母も農家で、企業より個人の方がコストも負担も高いけれど、売上が十分に見合っていないんじゃないかなと思いついた。でもお茶も最近におけるに、裏の努力や、その価格に対するこのエサを全然知らない。言われないし、気づけない工夫もたくさんある。でも変わらないと思いつかなければ、少しでも「これにはこんな工夫がある」というのを勉強うとしてすることをまず大切にしていきたい。生産者の人々が頑張るためにしてくれている大変な努力が少しでも報われる形にならうように、自分にできることをしたいくと思った。

4. 授業を実施してみた感想

フェローシップで実際に茶草場、藪の状況や、シカ・イノシシによる被害といった「現場の生きた課題」を体感していたからこそ、言葉に血を通わせ、生徒の心に響く授業ができたと感じています。実習で「お茶の美味しさ」を知り、その後の講義で「お茶が守る自然」を知るという流れにより、深い学びを構築することができました。

5. 体験を語ることによる子どもたちの学びへの影響について

教員自らが現地へ赴き、研究者や農家さんと共に活動した体験を語ることは、生徒にとって教科書以上のリアリティをもたらしました。「先生が見てきたこと、感じたこと」を話すことで、遠い場所の出来事ではなく、自分たちの住む地域の地続きの課題として捉えさせることができました。（画像は授業時に用いたスライドです）

				
1 おいしいお茶のお話 何かを買つときの、ちょっとした気持ち	2 かたがつあき。	3	4 芝	5
6  身近な木々を伐採していく	7 里山 	8  草原 日本の30%	9 藪 人の手が入らないと…	10  身近な木々を伐採していく
11 •最近、おじいさん達は山へ柴刈りにいかない。	12 •藪もないけど、植物もない。 •現在の日本の草原は1% (0に近づいていく未来がある)	13 	14  茶草場農法	15 
11 •最近、おじいさん達は山へ柴刈りにいかない。	12 •藪もないけど、植物もない。 •現在の日本の草原は1% (0に近づいていく未来がある)	13 	14  茶草場農法	15 
16  消費の1つの形	17 •人、社会、環境に配慮した消費行動がある。 •損得だけでなく、思いを知り、考え、判断する消費	18 		
16  消費の1つの形	17 •人、社会、環境に配慮した消費行動がある。 •損得だけでなく、思いを知り、考え、判断する消費	18 